

令和8年度 多文化共生分野で活躍する CIR によるセミナー

報告書

実施概要

日 時：令和8年8月25日（火）14:00～16:00

形 式：オンライン（Zoom Webinar）

テーマ：JET-CIR とともに進める多文化共生の地域づくり

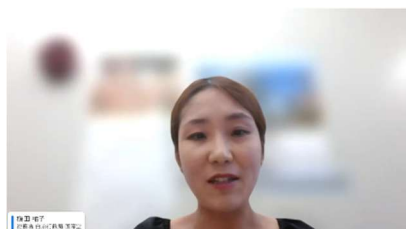
対 象：自治体職員、地域国際化協会・市区町村国際交流協会職員、JET プログラム参加者等

参加者：156 名

プログラム

時間	内容
14:00-14:05	開会挨拶 (一財) 自治体国際化協会 理事 古川 浩二
14:05-14:15	「在留外国人への対応に必要な環境整備における JET-CIR の活用と地方財政措置」 総務省自治行政局国際室 参事官補佐 榎田 祐子 さん
14:15-15:15	事例発表 佐賀県地域交流部多文化共生さが推進課 北御門 織絵 さん 元佐賀県 CIR (ベトナム出身) ハ グエン フェ ニエン さん 高知市 CIR (インドネシア出身) ファジャル ファチュ ラフマン さん 三重県 CIR (ブラジル出身) ハシモト マリナ さん
15:15-15:20	休憩
15:20-16:00	パネルディスカッション、質疑応答
16:00	事務連絡、閉会

■ 在留外国人への対応に必要な環境整備における JET-CIR の活用と地方財政措置



総務省自治行政局国際室 参事官補佐 榎田 祐子 さん

総務省における在留外国人への対応に必要な地方財政措置の見直しと、今後の CIR の活用についてご説明いただきました。

今年1月に政府が「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」を決定したことを踏まえ、在留外国人が地域社会のルールを理解し、必要な行政手続きを適切に行えるよう、地方財政措置が見直されました。具体的には、地域社

会のルール等を学ぶ上で必要な日本語指導、ワンストップ相談窓口からの同行支援、行政・地域社会と外国人住民をつなぐ人材の発掘・活用などが新たに対象となったほか、CIRについては、都道府県の交付税措置が拡充されました。

また、JETの任期満了後に地域おこし協力隊として地域づくりに携わる道も紹介され、JET経験者が培った言語力や異文化理解、地域とのつながりを生かしながら、地域社会に継続的に貢献していく可能性が示されました。

■ 事例紹介



佐賀県地域交流部多文化共生さが推進課 北御門 織絵 さん

任用団体の立場から、佐賀県における多文化共生の推進とCIRの役割について紹介されました。

北御門さんによると、CIRは外国人住民として地域で暮らしているからこそ、日常生活の中で感じる不安や困りごとを身近な立場で理解できるため、外国人にとって相談しやすい存在となっています。

また、その経験や視点を生かし、外国人住民への情報発信や相談対応、災害時支援などを行うとともに、日頃から把握した課題やニーズを行政につなげることで、外国人住民が安心して地域で生活できる環境整備を支えています。

こうしたことから、佐賀県では、CIRを単なる翻訳・通訳の担い手ではなく、多文化共生をともに進める重要なパートナーと位置付けていることが示されました。



元佐賀県CIR（ベトナム出身） ハグエン フェニエン さん

フェニエンさんからは、ベトナム人をはじめとする外国人を多く雇用する企業に向けて実施した、多文化共生研修について紹介がありました。

研修の特徴は、事前に企業へのヒアリングを丁寧に行い、各企業の状況や課題を把握した上で、それぞれのニーズに応じた内容としている点です。研修では、外国人労働者の視点から、円滑な意思疎通のために必要な配慮について、自身の経験を交えながら分かりやすく伝えることを心掛けていたとのことでした。

参加者からは、「外国人の立場で考えるきっかけになった」「やさしい日本語の必要性を実感した」といった声が寄せられ、社員同士のコミュニケーションの改善や、企業における多文化共生への意識の向上につながったことが報告されました。



高知市 CIR（インドネシア出身）

ファジャル ファチュ ラフマン さん

ファジャルさんからは、県と市の CIR 8 人が連携して開催した異文化交流イベント「世界をめぐってあそぼう！」についてご紹介いただきました。

市立図書館を会場に、各 CIR が出身国を紹介するブースを設け、費用をかけずにイベントを実現しました。約 140 人が参加し、各ブースを巡りながら、さまざまな国の文化や魅力に触れました。

また、高知インドネシア人会にも参加し、外国人コミュニティの一員として信頼関係を築きながら、生活ルールや病院の利用方法、トラブル時の対応など、日常生活に関するさまざまな相談に応じています。

こうした活動を通じて、市役所と地域をつなぐ橋渡し役を担い、「市役所に相談できる」「言葉が通じる味方がいる」という安心感を外国人住民に届けています。

三重県 CIR（ブラジル出身） ハシモト マリナ さん



マリナさんからは、意識啓発の活動について紹介していただきました。子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした出前講座では、単なる国の紹介にとどまらず、外国人住民の視点から地域での暮らしについて考えるきっかけを提供しています。

また、自治体職員向けのやさしい日本語研修や、県警察との訓練にも取り組み、外国人住民への対応力の向上を図っています。

こうした発信を通じて、外国人住民をより身近に感じてもらい、知らないことから生まれる偏見を減らすとともに、日本人と外国人との間にある「心の壁」を少しずつ取り除いています。

■ パネルディスカッション

事例発表の後には、パネリストたちが参加者からの質問に答えながら、CIR とともに進める地域づくりについて意見交換を行いました。

その中で、任用団体と CIR が地域のニーズを把握し、そこから見えてくる課題や必要性に応じて、新たな活動につなげていくことの重要性が指摘されました。

また、国際交流協会や学校、警察などの公的機関をはじめ、大使館や領事館、同国人コミュニティなど、さまざまな機関・団体との連携を深めることが重要であるとの意見も出されました。

さらに、多文化共生は、日本人と外国人との関係だけにとどまらず、年齢や障害の有無、性別など、さまざまな違いを認め合うことも含まれます。社会にあるさまざまな「壁」を少しずつ取り除き、一人ひとりが互いの違いを理解し、尊重しながらともに暮らせる地域をつくるのが、多文化共生の地域づくりにつながるという認識が共有されました。